

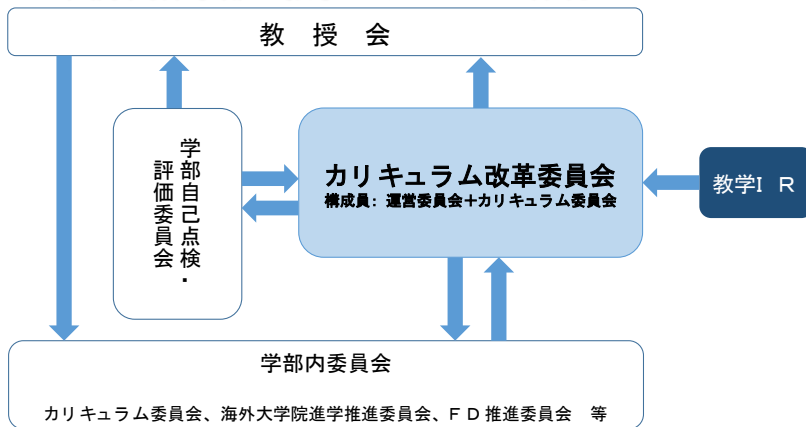
【国際関係学部】令和7年度 学部教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

運営委員会とカリキュラム委員会を構成員とするカリキュラム改革委員会を置き、カリキュラムの検証・改革、将来構想の事案についての推進体制を整えている。具体的には、学部内委員会（教学関係）からの情報・提案を基に、カリキュラム改革委員会が、教育等諸活動における課題に対する改善案を策定し、教授会で審議のうえ施策等を決定する。また、教学 IR 情報、学部自己点検・評価結果等を基に、学部教育の適切性を検証する。

国際関係学部 教学マネジメント体制



2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

①カリキュラムマップ

新カリキュラム導入に伴い再編したカリキュラムマップと各科目との整合性、体系性を継続的に精査、検証していく必要がある。

②シラバス

複数年度開講の必修科目のシラバスから、段階的な到達目標や評価方法が設定されていることが学生に分かりづらい。

③その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

カリキュラムの体系、資質・能力の科目間の関係などをわかりやすく伝える工夫が必要である。

今年度の取り組み

① R7 新カリキュラムについて、カリキュラムマップと各科目との整合性、体系性の精査に取り組む。

② 国際関係英語科目、演習科目について、到達目標、評価方法の順次性を点検した上で、シラバスから学生が順次性を理解できるような表記方法を検討する。

③ カリキュラムの体系、資質・能力の科目間の関係などをわかりやすく伝える方法を随時検討する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

・ 研究演習Ⅳの必修化にむけて、DP との対応において適切な研究演習の到達目標や評価方法を検討する必要がある。

・ 複数担当の必修科目において、客観的評価にバラツキがあるが、授業方法に課題があるのか、評価方法に課題があるのかわからない。到達目標、評価方法をさらに検討し、効果的な授業計画や成果発表の方法を精緻化する必要がある。

今年度の取り組み

- ・ 卒論ウィークや優秀論文の選定などを通じて、研究演習Ⅳの到達目標や評価基準の検討を引き続き行う。
- ・ 複数クラス開講で順次性のある必修科目（国際関係英語科目、演習科目）について、到達目標、評価方法を検討し、共通の客観的基準で成績評価を行うことで、授業方法や課題内容の適切性を検証できるようにする。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

- ・ 国際関係英語科目の集大成である3年次アセスメント科目のIIRで設定されている到達目標と、学生が習得する資質・能力との間に乖離があり、担当者間で評価にバラツキがある。
- ・ 学修者の主観的評価と科目の成績評価等の客観的評価とのズレが大きい。
- ・ 研究演習Ⅳの到達目標の達成状況について、学修者による主観的評価は非常に高い一方で、科目成績評価等による客観的評価においては十分なレベルではない学生が一定程度確認された。

今年度の取り組み

- ・ 課題解決型授業となる英語新カリキュラム科目の評価方法をさらに検討し、複数の授業担当者間での統一性を維持できるようにする。
- ・ 学修者の主観的評価と科目成績評価等の客観的評価との整合性を高め、より精度の高いアセスメントとなるよう取り組む。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
・ 海外フィールド・リサーチ ・ 発展演習Ⅱ ・ Issues in International RelationsⅡ ・ 研究演習Ⅳ	<input type="checkbox"/> 科目の成績評価
	<input type="checkbox"/> 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック）
	<input type="checkbox"/> 学習成果実感調査
	<input type="checkbox"/> GPA
	<input type="checkbox"/> 在学生調査（在学生生活に関するアンケート）
	<input type="checkbox"/> 学部独自調査（学修・進路に関するアンケート）
	検証方法（卒業時）
	<input type="checkbox"/> 卒業研究・卒業論文
	<input type="checkbox"/> GPA
	<input type="checkbox"/> 卒業時調査（4年次生調査）
	<input type="checkbox"/> 学部独自調査（卒業生アンケート）

取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）

学生がカリキュラムを通して、DPに定める学修目標に到達し、資質・能力が身についているかを、各種指標に基づき確認する。学部教学マネジメント体制のもと、学生の修得実感の低い科目、客観的評価と主観的評価との乖離が大きい科目については、FDなどを通して授業改善をはかることで学修者の修得実感の向上を諮り、到達目標の達成を客観的評価でも確認できるように効果的な指導方法の構築に取り組む。

その他

生成AIの適切な活用方法について、指導方法、課題における使用、評価における適切性の考慮などを国際関係英語科目を中心に検討する。

※この内容は令和6年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへの掲載を検討します。